

研修プログラム概要

研修期間	2	年間
研修病院（代表病院）	東北医科薬科大学病院	
研修協力病院（パートナー病院）	東北医科薬科大学若林病院、総合南東北病院	
研修協力薬局（パートナー薬局）	かみ薬局、ほなみ薬局	

区分	研修項目 【ガイドライン推奨期間】	研修期間	研修時期	研修施設	研修のポイント・特色
必修	(1) 調剤業務 【3ヶ月程度】	4ヶ月	1年目(4-7月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・内服・外用・注射薬調剤の基本的な手技の修得 ・調剤機器の活用による安全で効率的な調剤の実践 ・非薬剤師へのタスクシフト・シェアに基づく調剤の実践 ・疑義照会、および医師とのタスクシフト・シェアを目的とした処方代行修正PBPMの実践
必修	(2) 医薬品の供給と管理 【2週間以上】	2週間	1年目(9月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・麻薬・毒薬・向精神薬等の適切な管理の修得 ・医薬品安定供給のための在庫管理の修得
必修	(3) 医薬品情報管理(DI) 【2週間～1ヶ月】	2週間	1年目(9月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者からの質疑に対して適切な情報収集・評価・提供方法の修得 ・薬事委員会における採用医薬品検討の資料作成の実践
必修	(4) 病棟業務 (薬剤管理指導) 【6ヶ月程度】	16ヶ月	1年目(10-3月) 2年目(4-8月) 2年目(11-3月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・内科系病棟・外科系病棟それぞれ1.5ヶ月間の研修 ・12ヶ月間の担当3-4病棟のローテーション研修 ・症例報告10症例の作成
必修	(5) 在宅訪問 【1ヶ月程度】	18ヶ月	1年目(10-3月) 2年目(4-3月)	かみ薬局、ほなみ薬局	<ul style="list-style-type: none"> ・連携する「かみ薬局、ほなみ薬局」にて定期的に研修実施 ・居宅療養管理指導への同行、多職種連携の実践
必修	(6) 医療安全 【全期間】	24ヶ月	通年	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品関連のインシデントと分析結果を供覧し、実例ベースで医療安全を学習 ・危険予知トレーニングの実施
必修	(7) 感染制御 【全期間】	24ヶ月	通年	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・標準予防策の修得 ・感染性廃棄物の適切な廃棄の実践 ・抗菌薬適正使用に関する院内運用（広域抗菌薬・抗MRSA薬届出）の学習
必修	(8) 地域連携 【全期間】	24ヶ月	通年	東北医科薬科大学病院、 東北医科薬科大学若林病院、 総合南東北病院	<ul style="list-style-type: none"> ・保険薬局からのトレーシングレポートの対応を実践 ・周術期の抗凝固薬・抗血小板薬等の適切な休薬支援の実践 ・退院時サマリー提供の実践
必修	(9) 無菌調製 【2週間】	2週間	1年目(8月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・高カロリー輸液、抗がん剤の無菌調製手技の修得 ・CSTDを用いた抗がん剤調製を含む曝露対策の修得
必修	(10) がん化学療法 【1ヶ月】	2ヶ月	1年目(8月) 2年目(9月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法レジメン運用の理解と、レジメンに基づく鑑査の修得 ・外来がん化学療法患者への指導、副作用モニタリング、支持療法提案の実践
選択	(11) TDM	2週間	1年目(10-3月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・抗MRSA薬を中心とするTDMによる投与設計とそれに基づく処方提案の実践
選択	(12) 専門領域 (ICU・小児・産婦人科 ・精神科の薬物治療等)	1ヶ月	1年目(1月)	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ICU、小児科、産婦人科、精神科病棟から選択の上、病棟業務ベースの研修実施
選択	(13) その他	24ヶ月	通年	東北医科薬科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT、AST、NST、PCT等のチーム医療研修の実施 ・研修医、看護師との共同院内研修への参加 ・薬剤部カンファレンス（症例報告、学術報告、DIカンファレンス）への毎週の参加と、カンファレンス内での症例提示の実践 ・2年目内の学会発表の実践

補足事項 独自に作成したルーブリック項目には実務実習生教育を含んでおり、研修の観点からも教育病院の薬剤師として実務実習生への指導に関与し、体系的に教育の重要性を学習する。